



学校だより

No. 8 さいたま市立神田小学校
令和6年 8月28日発行 Tel (853) 4377
URL : <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を
たくましく生きる神田の子
・かしこく・たくましく・あたたかく

「失敗」という名の「成功」

校長 中村 誠



8月のある日、屋上から雪のない富士山を見ることができました。

夏休みが終わって、いよいよ2学期となりました。夏休みの期間、学校へ向かって歩いていたり帰りにバス停まで歩いていたりする時に会っていた子どもたちが、会うと「校長先生!こんにちは!」と声をかけてくれました。中には移動する車の中から、わざわざ停まって窓を開け、挨拶をしてくれた子もいます。神田小の子どもたちは、この夏休みの間も「神田小の誇りは「明るい笑顔」と「元気なあいさつ」の気持ちを大切にして過ごしていたんだと思い、とても嬉しくなりました。

本日を迎える前に、子どもたちの中には「学校が楽しみ!」「友達とはやく会いたい!」という子もいれば「ああ・・・面倒だなあ」「なんとなく行きたくないなあ」と思う子もいたかと思えます。大丈夫です。自分のペースで生活してきた夏休みから集団生活が始まる2学期になるのですから、楽しみなことあれば心配なことがあるのは当然です。それは大人も同じだと思えます。感受性が豊かな子どもたちだからこそ、期待も含めた不安や心配も大きいかと思えます。私たち教職員一同は、そうしたたくさんの思いをもった子どもたちが、安心して学校生活を送れるように、2学期のスタートをあたたかく迎えてまいります。心配なことがありましたら、遠慮なくご連絡ください。

トーマス・エジソンが「私は今までに一度も失敗をしたことがない。電球が光らないという発見を今まで二万回しただけだ。」と語った有名な言葉があります。私はこの言葉が大好きで、担任をしていた時にもよく子どもたちに話していました。例えば、理科の実験で自分たちの思った通りの結果が出なかった時、子どもたちは納得しません。その際に失敗したと思わせないよう「その実験だとうまくいかないということが分かったね!次にいかせるよ!」と声をかけていました。そして、改善点を考えさせ、できる限りもう一度実験をさせるようにしました。授業時間の関係上必ずもう一度実験をさせることはできませんでしたが、できなかった時なるべく子どもたちが改善点を考え「こうしたらうまくいくかも」と思わせるようにしていました。

これからの未来を生きる子どもたちにとって、自分の思い通りにいかなかったことや何かに取り組んでうまくいかなかったこと、いわゆる「失敗」と思われることから、学ぶことがとても多いと思えます。まさにチャンスにチャレンジしてチェンジする絶好の機会です。例えば、間違っ教室のものを壊してしまった時、壊したことへの指導をするのではなく「どうして壊れるという結果になったか」を考え、「次はこうしていこう」と、子どもたち自身が思うことこそ大事だと考えています。「失敗」はこれからの成長につながる「成功」といえます。これからも、教職員が一丸となって、子どもたちの「失敗」を「成功」に転換できるよう努力してまいります。

保護者の皆様、地域の皆様には、今学期も子どもたちの頑張りを称賛し、強くしなやかな心をもつ人間育成にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。